

## 中国（上海）ビジネスサポート

### Monthly China News

\* 毎月 1 回、定期的に中国より配信致します。

11 月の上海といえば、「上海蟹」シーズン。毎年恒例の上海海洋大学主催「王宝和杯上海蟹コンテスト\*」。江蘇エリア 100 社から 2,300 杯の蟹選手がコンテストに出場しました。夏の猛暑にもかかわらず、出来具合はまずまず。雄のチャンピオンは 560.8g、雌は 433.2g。雄雌両方を味わえるのはこの時期だけです。週末の市場にも、ずらりと蟹が並びます。例年より暖かい上海より、レポートをお届けします。（\*王宝和；100 年の歴史ある上海蟹専門店。黄浦区本店では蟹フルコースが味わえます。）



#### 【政治・経済】

- ・習近平国家主席、バイデン米大統領と初の対面；習近平国家主席はインドネシア・バリ島にて、14 日バイデン・米大統領と初の対面会談。悪化する中米関係改善に期待が寄せられた。経済関連での両国の合意事項は主に 5 項目。①両国の財政・金融チームがマクロ経済政策、経済・貿易等の問題について対話・協調を行う。②「気候変動枠組条約」第 27 回締約国会議(COP27)が成功を収めるよう共に努力して推進する。③両国の公衆衛生、農業及び食糧安全保障の対話・協力を行う。④米中合同ワーキンググループを適切に活用し、より多くの具体的な問題の解決を推し進める。⑤両国の各分野における人的交流の拡大を奨励。今後の習氏の外交・各国との関係調整に注目が集まる。（11/15 人民日報）
- ・習近平国家主席、日本岸田文雄首相と会談；中日両首脳の間で会談が 17 日タイ・バンコクにて実現した。中米関係が難しい中での日本の立ち位置に、こちらも注目が集まった。今年、中日は国交正常化 50 周年。習主席は過去 50 年間に、一連の重要な共通認識に至り、各分野の交流や協力でもっと豊かな成果を上げ、両国民に大きな幸福をもたらし、地域の平和・発展・繁栄も促進したと言及。経済関連では、習主席は「両国の経済は相互依存度が大変高い。デジタル経済、グリーン発展、財政・金融、医療・養老、産業チェーン・サプライチェーンの安定の擁護とスムーズな流れの確保などの面において対話・協力を強化し、より高水準の強みによる相互補完や互惠・『ウィン・ウィン』を実現すべき。両国はそれぞれの長期的利益と地域の共通利益に焦点を当て、戦略的自立性、良好な隣国関係、紛争や対立を制御し、真の多国間主義を實踐し、地域統合プロセスを促進し、共同してアジアを発展させ、よりよく構築し、地球規模の試練に共同で取り組むべきである」とした。日中両国は協議の結果、二国間関係の安定と発展に関する 5 項目にて合意。経済関連では、省エネ・環境保護、グリーン開発、医療・療養、養老・介護の分野での協力を強化していく。（11/18 人民網・人民日報）
- ・新型コロナ予防・管理措置を最適化；共産党中央政治局常務委員会は、予防・管理業務の更なる最適化に関して 20 条の措置を策定。依然として世界で蔓延する感染症は、国内でも絶えず出現。人口、社会的弱者数の多さ、地域格差、医療資源不足等の中国特有の状況、そしてウイルス変異や気候要因による影響等を考慮し、今後も感染症が一段と拡大する可能性があるとして、「4つの早期」（早期発見、早期報告、早期隔離、早期治療）を念頭に、防疫措置を更に最適化するとした。隔離輸送・PCR 検査・人の移動・企業や学校等の防疫措置を一層精緻化させ、防疫措置は緩めてはならないとしている。一方では、管理が多層化しており情報が倒錯する点や、柔軟性・人道性のない「画一的な封鎖処理」等には見直しをすべきとした。（11/11 人民日報）

- ・中国の失業率、回復せず；雇用（10月）は、都市部調査失業率が5.5%、青年層（16-24歳）の都市部調査失業率が17.9%、いずれも9月から横ばい。都市部新規就業者数（10月）は未公表。10月の中国経済は依然として厳しく、景気回復の勢いは鈍化。海外にはまだ不安定で不透明な要素が多い中、ゼロコロナ政策の影響で内需も十分に回復しておらず、企業経営も厳しい状況にある。（11/15 国家統計局）
- ・1-10月社会消費財小売総額；1-10月社会消費財小売総額は前年同期比0.6%増の36兆575億元で、増加率は1-9月を0.1ポイント下回った。うち自動車を除いた消費財小売総額は、同0.5%増の32兆3702億元。10月には、中国国内で新型コロナウイルス感染症が再発生した影響により、人が集まる場所での消費が打撃を受け、特に一部のサービス提供に対する消費は全体として伸びが鈍化。10月の社会消費財小売総額は同0.5%減少し、そのうち飲食業の収入は同8.1%減少した」と述べた。国家統計局は新型コロナによる市場の売上への影響はまだあるだろうが、全体としては短期的な影響、外部からの影響にとどまり、中国の消費は依然として回復好転に向かうとしている。（国家統計局、人民網11/16）
- ・中国の実質GDP成長率；中国の実質GDP成長率は、22年は前年比3.3%。ロックダウンによる経済活動の混乱による影響を受けているとした。先行きの不確実性として不動産市場の低迷継続、不良債権の増加、ゼロコロナ政策が継続された場合の混乱による内需の低迷を指摘。（11/22 OECD）

### 【製造業関連・関連の政策等】

- ・電池用炭酸リチウムの平均現物価格急騰；11月に入り電池用炭酸リチウム価格が高値を更新。8日に57.9万元/トン、9日に58.3万元/トン、11日に59万元/トンと、連日過去最高記録を更新。（11/10 上海鋼鉄連合）
- ・10月の自動車販売台数が前年同月比増；10月の国内自動車販売台数は前年同月比+6.9%（9月比▲18.8pt）の250.5万台。うち乗用車販売台数は同+10.7%（9月から▲22pt）の223万1,000台、商用車は同▲16.2%（9月から▲3.7pt）の27万3,000台だった。新エネルギー車は生産・販売とも過去最高で、販売台数は前年同月比+81.7%の71万4,000台、市場占有率は28.5%にまで達している。（11/10 自動車工業協会）
- ・非鉄金属業界炭素カーボンピークアウト実施計画；工業情報化部、国家発展改革委員会、生態環境部は合同で「非鉄金属業界炭素カーボンピークアウト実施計画」を発表、「第14次五か年計画」期間中に非鉄金属の産業構造とエネルギー使用構造を大幅に最適化し、リサイクル金属の供給割合を24%以上とし、非鉄金属産業のグリーン、低炭素、循環型産業システムを基本的に確立するとした。（工業情報化部、国家発展改革委員会、11/15 新華社）

### 【中国・スマート家電産業】

中国もいよいよ高齢化社会に突入しようとしている。

高齢化社会とは、60歳以上の人口が総人口に占める割合が10%を超えると高齢化社会突入、10%以上20%未満は軽度高齢化、20%以上30%未満は中度高齢化、30%以上は高度高齢化との区分けが一般的。中国第七回全国人口調査では、2021年には総人口に占める60歳以上の割合は18.7%で、中国はまだ軽度高齢化の段階。ところが2025年頃には60歳以上の高齢者は3億人を超え、中度高齢化社会に突入すると予想され、2035年には、60歳以上の人口が4億人超。全人口の30%以上が老人という社会に中国も直面。

中国での高齢化はスピードの速さと、人数の多さ、そして経済格差も大きいことが課題。日本のような老人ホームはまだ少なく、在宅介護やコミュニティケアが圧倒的多数派。90%の高齢者が自宅で生活し、7%が地域ケアサービスを購入し、3%が高齢者施設で暮らすという、「9073」という高齢者ケアサービスモデルが中国の実情。高齢者と共に暮らすために、「スマート家電」への期待値が高まってきている。（\*国家統計局、公開資料からFNA調査部整理）

## ◆中国のスマート家電市場

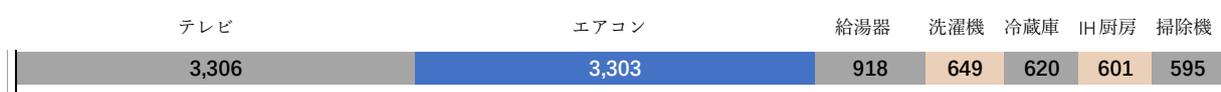


スマート家電は、製品単体、家電システムのスマート化、家全体のスマートホーム化の3段階に分けられる。高齢化加速に伴い、中国のスマート家電の市場規模は2016年から2020年にかけて拡大、市場規模は2020年には5,155億元に達し、2022年には6,483億元にまで達する見込である。

中国コロナ対策の影響もあり、以前よりも家にいる時間が長くなった最近では、エアコン、冷蔵庫、洗濯機などの家電製品はスマート化需要が最も高く、また消費レベルの高さも追い風となり、先行きが明るい業界となっている。

## ◆スマート家電の売れ筋

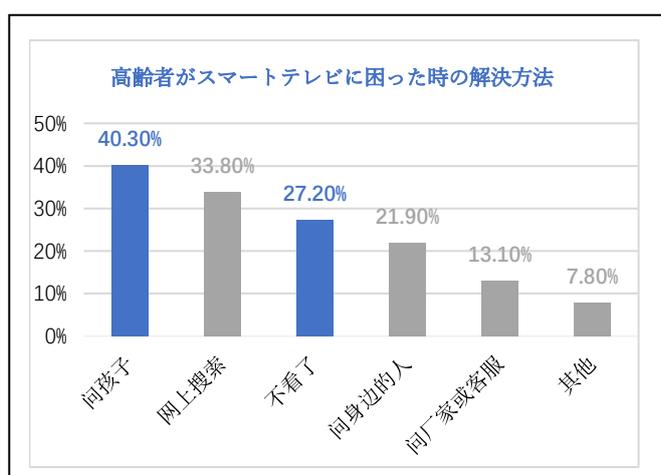
2020年中国スマート家電売上数 (万台)



## ◆使いこなせないスマート家電

高齢者の中には、スマート家電の扱いに困るケースも多々ある。売れ筋のテレビでは、実は使いこなせない人が多い事も明らかに。「電源を入れても見たい番組に繋がらない」、「機能が多く、切り替え方がわからない」、「操作がややこしく、見たい番組が探せない」、「リモコンボタンが多すぎて、使い方もわからない」、「困った時に助けてくれる人がいない」などが最大の悩みである。「その時は普段はどうするのか?」という質問に対しては、「子供に問い合わせる」40.3%、「ネットで検索する」33.8%、「あきらめる」27.2%、「メーカーのオペレータに連絡する」と「隣人や友人に聞く」も若干、という結果になった。

スマートテレビだけでなく、掃除機、エアクリーナー、電気鍋、炊飯器など、多くのスマート家電は使い方が複雑で、高齢者にとってはまだまだ使いにくい。（\*中国家電網《2022国内高齢化市場テレビ研究報告》より）



## ◆高齢者の消費意欲

『2020年の新消費者トップ10』の調査によると、100万元以上の資産を持つ新高齢者が調査対象の31%。うち80%が来年も支出を維持または増やすと回答している。そして、55%が「自分らしく生きたい」と考えており、41%は「食事や生活習慣が健康に与える影響」を重視し、豊かな暮らしの質を求める傾向にあると考えられる。

（\*新周刊《2020十大新消費人群》）

日本では、一般スマート製品の使い方を高齢者に教えるために多大な労力を費やすよりも、開発時に高齢者の日常生活の細部にまで実験を繰り返す

返し、実用化させることで、高齢者の学習コストを最小限に抑えるほうが良いとされている。このような考え方や着眼点は高齢者向けのスマート製品やサービスを提供する上で、今後中国が学ぶべき点でといえるだろう。

（\*新周刊《2020十大新消費人群》）

## 【トピックス】

### 1、11月11日（独身の日）ダブルイレブン売上伸びず

恒例の「独身の日」お買い物デーである11月11日。「双十一」の売上は、アリババ集団の「天猫（TMALL）」によると今年の「双十一」の取引規模は昨年から横ばいだったと発表。京東（JD）集団は、新記録を樹立し買物客数も過去最高を記録したと述べるにとどまった。防疫措置による運送の不確定さ、購買意欲減退、そして収入そのものが減っていることも要因と考えられる。（11/13 第一財經）その中でも目立ったのが、ペットの日用品、犬・猫用サプリメント、ペット生活サービスなどの売行き。大幅な伸びを見せており前年同期比で50%増加したという。

### 2、中国入国者に対する隔離日数2日間短縮

新型コロナウイルスの防疫措置に関する新政策が発表された。特に注目は、外国からの入国者に対し、これまで「7日間集中隔离+3日間在宅健康モニタリング」であったところ、「5日間集中隔离+3日間在宅隔離」に短縮された点。厳しいホテルでの集中隔离が若干短くなった。当該国でのPCR検査も、搭乗前48時間以内に「2回」から「1回」にすること等の調整が行われた。先月から各国国際線も増便傾向にあり、外国からの入国者には朗報ではあるが、全面開放に向かう世界から見れば、まだまだ厳しい措置とも言える。

### 3、天然ガス累計生産量、2,000億立方メートルの大台を突破

塔里木（タリム）盆地初の1兆立方級ガスエリア「克拉-克深ガスエリア」の天然ガス累計生産量が2,000億立方メートルの大台を突破した。「西気東輸」（西部地域の天然ガスを東部沿海地域に輸送する構想）における安定的なガス供給に確かなエネルギー源を提供し、中国のグリーンで低炭素な発展を力強く促進している。克拉-克深ガスエリアは塔里木盆地北縁に位置しており、「西気東輸」の主力ガス源である同エリアでは近年、5ヶ所のガス埋蔵資源が新たに見つかり、天然ガス生産能力が56億5,000万立方メートル追加された。これは年産450万トンの油田に相当する。

（中国石油天然気集团公司（中国石油）11/13・人民網 11/14）

### 4、中国過去10年の発明特許取得件数、累計395万3000件に

中国の知財権事業が大きく進歩。中国の過去10年の発明特許取得件数は、なんと累計395万3000件で、商標登録件数は累計3556万3000件。22年9月現在の中国の発明特許保有件数は408万1000件となった。中国国家を挙げて研究者開発者支援、企業の研究所、ハイテクセンター支援を行ってきた結果が実ってきた。中国のグローバル・イノベーション・インデックス（GII）の順位は2012年の34位から22年の11位に上昇。ハイテクメーカーとしてのTCLは世界の43の研究開発センターを持ち、研究開発者は1万8600人。量子ドットECディスプレイ分野で公開している特許は1987件で世界2位となっている。

## 【中国輸入博覧会】

第5回中国国際輸入博覧会（輸入博、CIIE）が10日に閉幕した。年間ベースで、意向成約額は累計735億2千万ドル（約10兆4465億円）に達し、前回の輸入博に比べて3.9%増加。コロナ蔓延の状況を考えると開催そのものに心配もあったが、無事終了。来場者への防疫要求はワクチン接種要求やPCR要求、居住エリアによっては入場できない等、若干混乱気味であったが、事前登録さえクリアすれば、入場時の手間はなく非常にスムーズであった。



今回の輸入博は中国共産党第 20 回全国代表大会が開催されてから初めて行なわれた重要な国際見本市。世界の計 145 の国・地域と国際機関が参加し、関連イベントとして虹橋国際経済フォーラム内で 24 の講演が行なわれ、127 ヶ国・地域の企業約 2800 社が企業商業展に出展。初披露された新製品、新技術、新サービスは計 438 件に上り、前回の水準を上回った。

企業出展では前回は上回る計 284 社のフォーチュングローバル 500 の企業と各業界のリーディングカンパニーが出展し、リピート率は 90%。こちらも昨年を上回った。今回初めて構築されたデジタル輸入博プラットフォームには技術設備企業 368 社がオンライン出展し、計 64 回のライブ配信や中継を行い、期間中視聴回数は延べ 60 万回に達している。

同博覧会の各国国家総合展は出展・展示スタイルを絶えず更新、今回のオンライン国家展には計 69 の国と国際機関が新たに開設されたデジタル展示ホールに登場し、VR 型展示スタイルによって、科学技術イノベーション、文化芸術、投資環境などを紹介、累計訪問者数は延べ 5900 万人を超え、前回は上回った。（新華社 11/11）



日本貿易振興機構（JETRO）のジャパン・パビリオンには、行き来が難しい中で、今年も多くの人場者が詰めかけた。食品・農産品ホールの JAPAN MALL ブースでは今回、体験向上を図るため、酒類の自動試飲を新たに導入。壁面に設置した蛇口を捻ると、自動的に酒類が注がれるようになっている。壁面には計 50 個の蛇口が取り付けられているが、会期中に酒類を一度入れ替えるため、100 種類を超える酒類を自動試飲できると話題を呼んだ。（新華社 11/9）



**【イベントセミナー】**

1：FBC 上海 12 月 15 日（木）：上海国際貿易中心（参加費無料、オンライン参加可）  
 ＊（公財）大阪産業局上海代表処は FBC ものづくり商談会の共催団体になっています。

~~~~~  
 上海封鎖中は雨も晴れも関係なく、そして解除後は 40℃超の猛暑。11 月に入っても 28℃の日があったり、梅雨のような長雨の天気が続いたり。今年は暖冬かなと思いきや、寒気の影響で月末から気温が急降下とのこと。20℃台から一気に 3℃は身体にたえます…。早いもので来月は師走。2022 年最後の 1 か月の動き、次月のレポートでご報告致します。

大阪産業局上海代表処 中国（上海）ビジネスサポート  
 ファクトリーネットワークチャイナ（工場網信息科技有限公司）  
 上海市長寧区延安西路 2201 号 上海国際貿易中心 2 階 268 室